

コロナ感染が現場に及ぼす倫理問題を斬る!!

81名参加

日時：令和4年3月19日 15:00~16:00

大阪医科薬科大学看護部 小林 道太郎 先生 プロフィール

- ・2008年 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了
- ・2010年 大阪医科薬科大学看護学部講師
- ・2021年 大阪医科薬科大学看護学部教授
- ・哲学・倫理学、特にE.フッサールの現象学を専門にしておられ看護実践や患者の経験に関する現象学的研究、看護倫理などがあり、「ケア倫理は看護倫理にどう貢献しうるのかケアの諸局面の倫理要素から」などの論文を出されています。



現場で生じている倫理的問題・疑問

- 感染拡大防止のため、どのような制限が適切なのか？
 - ・面会制限、行動制限やルールなど
 - ・個々の場合に、事情によって例外を認めるべきか？
 - ・ルールを守らない人に対してどうすればよいか？
 - ・対象者・家族の苛立ち、施設や医療者への不満や非難にどう対応したらよいか？
- 諸制限のために十分な対応やケアができない
 - ・看護師が患者の元に行く頻度や滞在時間を減らざるを得ない
 - ・受診控え、ケアの拒否等により状態が悪化する人がいる
 - ・面会制限のため患者が家族から切り離されてしまう
 - －心理的な悪影響や意欲の低下、身体状態の悪化
 - ・患者家族とのコミュニケーションが不十分になる
 - －思いが把握しにくい、患者の状況が伝わらない
 - ・意思決定支援、退院支援への悪影響
- 業務の体制・手順が普段と違う、急な対応や変更が頻発することによる諸問題
 - ・業務負担(量・緊張感・リスク)の増大と偏り
 - ・コロナ対応のための応援体制とその不公平や不満
 - ・不慣れた対応による負担やミスの発生、患者の不利益
 - ・対応方針やその変更への疑問・不満
 - ・人によって考え方や意見が違う、慣れないチームの連携の問題

結果：上記問題に対して、どこでも適用できるような「正解」はない
ならば→関係者が互いに意見を言い聞きあいながら進めていく他はない

いくつかの倫理的問題について考えるためのポイント

1. 患者・関係者の行動や権利の制限をどう考えるか？

- 患者関係者の行動や権利の一部を制限することは一般論としては社会的合意があるとみてよいだろう。

2. 対応が適切であるか（正当化可能であるか）を検討する際のポイント

- 制限の必要性・・・患者を守る、病院機能の維持、対策の効果が損なわれる理由
- 制限による影響・・・どのような不利益が生じるか代替できる対応はないか特別な配慮を要する人は誰か。
- 制限が解除されるための条件を見直し

3. 制限や措置に納得しない人がいる！それに対して説明できることは？

- 科学的根拠に基づいた判断であること
- 国の方針、施設の対策会議等で方針決定であること

4. 説明についてのポイント

- 情報共有はいつ、どの範囲の人に、何を伝えるかを明確にする
- どう対応しようとしているのかを話す

ワクチン接種をしていない人に対して

※正当な理由なしに特定のカテゴリーの人達に対して不利益な扱いをすることは差別になる。
» 感染防止等の理由により正当化できる違いは差別ではない

まとめ

- ◆ 個別の状況によって多様な問題に対してひとつの「正解」はない →話し合っ進めていく
- ◆ 通常と違う制限や別扱いについてその必要性・生じる不利益・解除の可能性等を挙げて比較検討する →これらについて丁寧に説明する
- ◆ 不満等に対してコミュニケーションや組織業務の改善が可能か検討する、ストレスマネジメントに努める

研修担当者（府北役員）
向井 貴美子
松下 奈美
恵 愛

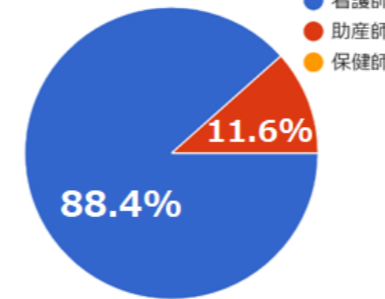


70件のご回答

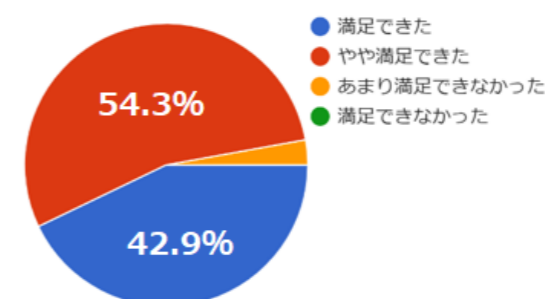
他、多数のご意見をいただきました。ご協力いただきありがとうございます。

- ・コロナ禍がまだまだ継続中、日々行っていることが間違っていないと感じ安心しました。
- ・色々悩むこともあり、色々な意見の中、考えがぶれそうになることはあるのですが、みんな置かれた環境は同じであることを理解し、協働していきたいと思いました。
- ・面会制限の中で患者家族が納得できるよう工夫をしながら看護を行なっていかなければいけないと改めて感じました。
- ・いろいろな人と意見交換することが大切だとは思いますが、コロナ禍で顔を突き合わせて議論できないことが多く、自分の意見を正しく相手に伝わっているのかが不安です。これからはより表現力を磨き正しく伝えるスキルを身につけたいと思いました。それまでは相手の反応を確認し正しく伝わっているかを確認したいと思います。
- ・今、まさしく看護師スタッフのさまざまな不平不満、負担感、辛さを面談で聞いてコミュニケーションや説明不足が生じているのを痛感しています。管理者としての自分の気持ちのコントロールをしながら向き合っていきたいと考えました。
- ・今回の研修内容にもあったように、私自身も感染対策のための面会制限によって、ご家族と関わる機会が少なくなり退院支援の難しさなどを感じていました。研修から、それらのモヤモヤを言葉にして話し合うことの重要性を学びました。
- ・科学的根拠に基づいて考えるなら過剰な対策だと思います。国の方針がおかしいと感じます。
- ・講義を聞き、自分が今までしてきた事が整理できました。
- ・今回のように、よく分からないものの対応が学べるのはありがたいです。
- ・今回のように、今、活用できる内容が学びたいです。

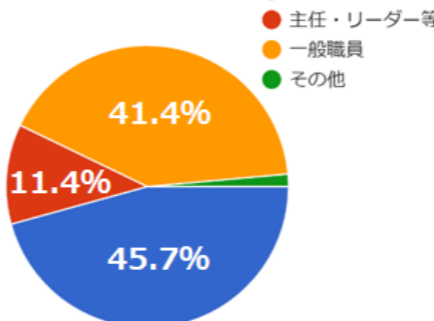
あなたの職種について



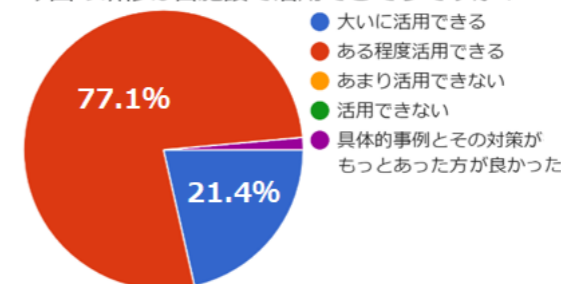
講義内容はいかがでしたか



職位について



今回の研修は自施設で活用できそうですか？



多くの方が長引くコロナ禍の中、看護実践の場において日々行っているコロナ対策に同じ悩みや不安、ジレンマを抱えているのだと感じました。講義を受けた皆さんが、今までやってきた事が間違っていなかったと感じる事ができ、またモヤモヤは言葉にして話し合うことが重要である事を学べたのではないかと思います。

編集後記 府北支部書記 青野 裕子

コロナ禍でご多忙な中、多くの方にご視聴いただきありがとうございます。今回の研修は、現場で起こるさまざまな倫理問題に対応する為の考え方・知識を学んでいただけたと思います。誰のため、何のための制限・措置なのか、理解・協力が無ければコロナと戦っていけません！